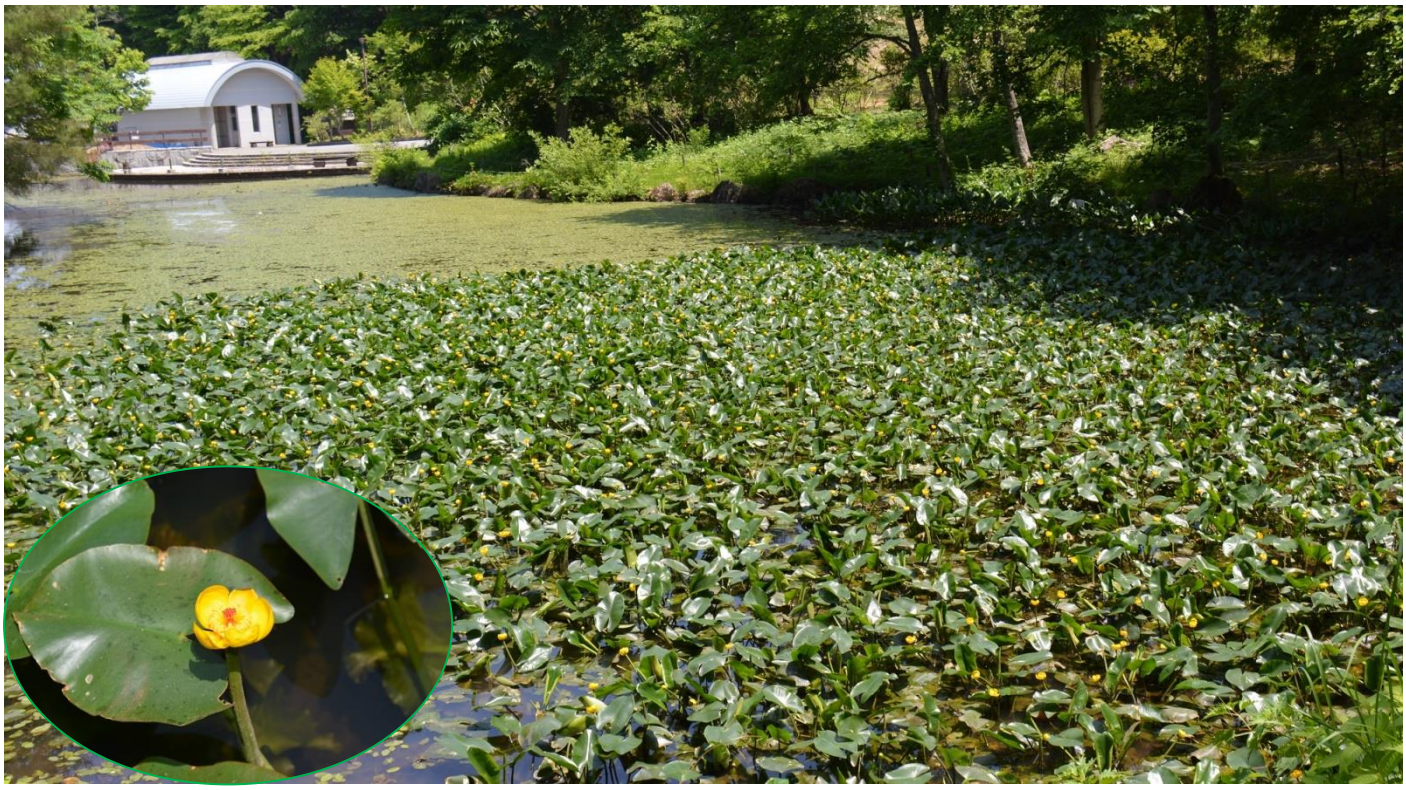
平成３０年６月１５日

各　位

山形市野草園　：　山形市大字神尾 832-3
電話　023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



野草園の「ひょうたん池」に群生するオゼコウホネ

オゼコウホネ（スイレン科）
高山や北の地方の池や沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を１個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別できます。

東北南部も梅雨入りし、野草園の夏の花たちはますます元気な姿を見せてくれています。園内には３つの池と１つの沼、それに湿地があります。「ひょうたん池」や「吉林の庭」の池にはオゼコウホネやスイレンが、「大平沼」にはヒツジグサ等の水辺の花が、たくさん咲いています。湿地の「水辺の花コーナー」では青紫色のカキツバタとヒオウギアヤメが咲き、間もなく紫色のノハナショウブも咲き始めます。是非、園内を散策しながら、夏の水辺の花たちをご覧になり、お仕事の疲れを癒してください。

６月中旬～７月上旬までのイベントの予定

【開園時間の延長】　６月１日～８月３１日は、午前９時から午後６時まで開園します。
尚、入園は午後５時までです。

【無料開放日】　７月１日（日）・・・　市制施行１２９周年を記念して、大人の入園料が無料になります。

◆【ガイドウォーキング 】

〇日　時　　６/１７（日）、２４（日）、７/１（日）、８（日）

①10:00～11:00　②11:00～12:00　③13:00～14:00　④14:00～15:00

〇場　所　　野草園内全域

〇内　容　　ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もします。

◆【第２４回写真コンテスト入賞作品展】　６月２日（土）～７月１日(日)　９：００～１８：００

〇内容・・・２９年度の写真コンテストで入賞した作品を展示。

〇場所・・・野草園自然学習センター内　　〇費　用　　無料（入園料別）

◆【山野草の育て方教室】

〇日　時　　６月１９日(火)　　１０：００～１２：００

〇講　師　　蔵王園芸店　佐藤　祐一 氏

〇内　容　　ヤマアジサイ２品種（手毬咲き、移り紅）の鉢植え

〇場　所　　自然学習センターピロティ

〇対　象　　先着１３名　　〇参加費　材料代 2000 円　（入園料別）

〇申込み　　電話で野草園まで　℡　０２３－６３４－４１２０

◆【四季観察会 ② 】

〇日　時　　６／２７(水)　10:00～12:00　－(昼食)－　13:00～15:00

〇講　師　　佐竹惠一　氏

〇内　容　　この季節のシダ植物について学びます。　〇場　所　　野草園内

〇対　象　　先着２０名　　〇参加費　　資料代 100 円(入園料別)

〇申込み　　電話で野草園まで　℡　０２３－６３４－４１２０

◆【ホタル観察会】

〇日　時　　６/２９(金)～７/１(日)、　７/６(金)～８(日)

１９：３０～２０：３０　（受付　１９：００～１９：３０）

※小雨決行、悪天候の場合は中止となります。

〇内　容　　ゲンジボタルとヘイケボタルを鑑賞して楽しむ。

〇持ち物・服装　　長袖、長ズボン、雨具　　※鑑賞中、懐中電灯は使えません。

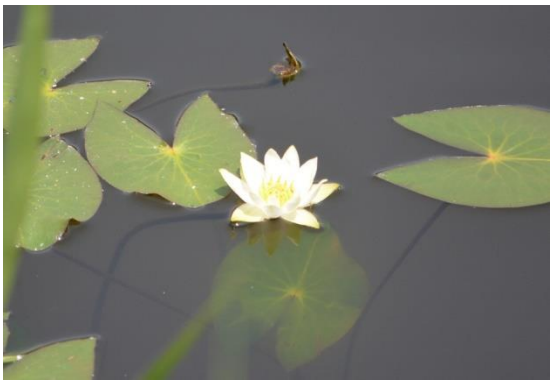
〇対　象　　各日、先着８０名程　　〇参加費　無料（入園料別）

〇申込み　　電話で野草園まで　℡　０２３－６３４－４１２０

●●●６月後半に見られる主な花たち●●●

スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名は「朝に花が開いて夜に閉じる」つまり、睡る蓮ということでつきました。



ヒツジグサ（スイレン科）

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8～15枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。名は未草（ヒツジグサ）で、未の刻（午後2時）頃に開くことによります。そして、夕方には閉じてしまいます。

ヤマボウシ（ミズキ科）

各地の山野に普通に自生する落葉高木で、ハナミズキに花や葉は似ています。花びらのように見えるのは苞（葉が変化したもの）で、その中心に淡黄緑色の小さな花が２０～３０個密集してつきます。花は、花弁と雄しべは４個で雌しべは１個です。秋に果実は赤く熟します。名は丸いつぼみの集まりを坊主頭に、白い苞をそれの頭巾に見立てました。

オオナルコユリ（キジカクシ科）

北海道～九州に分布する多年草。比較的明るい落葉林下の林道沿いや谷部などの適潤な立地に生育します。同属のナルコユリやミヤマナルコユリに比べて大形で、茎は高さ１ｍ前後、葉は長さ 30㎝ に達します。細い花柄の先に、６枚の花被片が合着した筒状の花を２～４個つけます。この垂れ下がる花の様子を鳴子に見立てた事が和名の由来とされます。

ムシャリンドウ（シソ科）

茎先に青紫色の花をまとまってつけ、花の長さは３㎝くらいで、唇形です。下唇が発達していて、濃い紫色の斑が入り、羅生門蔓（ラショウモンカズラ）にやや似ています。下部の葉には柄があり、披針形です。葉は幅の広い線形で、向かい合って生える対生です。また、葉の脇から数対の線形の葉をつけた短い枝が出ます。

カキツバタ（アヤメ科）

水湿地に群生する多年生草本です。葉の幅が広く中央の脈がはっきりせず盛り上がりません。花茎の先に青紫色の花をつけ、3 枚の外花被片には白色の斑紋があります。カキツバタは「書き付け花」のなまったものだそうです。書き付けとはこすりつけることで、昔はこの花を布にこすりつけて染料に使ったそうです。

ヒオウギアヤメ（アヤメ科）

湿った草地に生える多年草です。葉の幅はアヤメに比べて広く剣状をしています。３枚の外花被片は大きくてアヤメに似ていますが、内花被片３枚は小さく目立ちません。ともに、外花被片が黄色～白色で紫色の編目が入ることで他の花と区別ができます。名は、葉が桧扇（ヒオウギ）に花がアヤメに似ているからです。

ガマズミ（レンプクソウ科）

日当たりの良い山野や林縁などに普通に生えます。幹は株立ち状になり、太い幹は 4cm 程度になります。葉は対生し、葉身は広卵形から円形、基部は広いくさび形、あるいは多少心形になるものがあります。縁には浅い鋸歯があります。本年枝の先から、散房花序を出し、白い小さな花を多数付けます。

ニッコウキスゲ（ススキノキ科）

本州の中部地方以北の山地に生える多年生草本で、草原に群生することがよくあります。花茎の先にオレンジ色の花を３～４個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ１日花で、漏斗状の鐘形です。若葉やつぼみはおいしいらしく、カモシカも大好きです。

スモークツリー（ウルシ科）

別名はハグマノキ、雌雄異株で 3㎜ ほどの小さな淡緑色の花を穂状にたくさん咲かせます。花後、雌株は不稔花（タネを結ばない花）の軸部分（花柄）が長く伸びて羽毛のようになり、花穂の見た目がもふもふした感じなります。名前は、この花穂が煙のように見えるところに由来します。果実が風に乗ってより遠くに飛ばされるように、花柄が羽毛状に伸びるとも言われています。

ハコネウツギ（スイカズラ科）

太平洋側の山地に生育する高さ２ｍ程の落葉低木です。対生する葉はやや厚く、枝先に多数の筒状花を付けます。花は初め白色で、徐々に紅色に変化します、だから１つの木に白色と紅色の花が咲き並び華やかです。また雌しべの柱頭が少し出ていて目立ちます。最近箱根の低地に自生していることがわかってきました。

ノハナショウブ（アヤメ科）

山野の草原や湿原に生える多年草でハナショウブの原種です。葉の幅が狭く中肋（葉の中央にある葉脈）があり、太くはっきりした筋となる特徴があります。赤紫色の花を開き基部は黄色です。全体が細長く外花被片は楕円形、内花被片は小さなへら形で直立していることで、ハナショウブとは区別できます。名は野生のハナショウブの意味だそうです。

トビシマカンゾウ（ススキノキ科）

海の近くに生える多年草です。草丈が高い点を除いてはニッコウキスゲと区別点は見いだせなく、海岸という立地に基づく生態型（島嶼型）であろうと考えられています。飛島では全島にわたって広く分布しています。花や蕾を取って食用にしたり、葉は稲わらの代用として島民の生活に利用されていたそうです。

ヤナギラン（アカバナ科）

山地の日当たりのよいところに生える多年草です。茎は直立して分枝しなく、葉は互生し披針形で葉柄はなく裏面は帯白色です。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、だんだん下から上へ咲き上がります。先駆植物で、山野が工事跡などで荒れると進出しますが、木が茂ると姿を消します。名は花が美しい蘭に葉が柳に似ていることによります。

ウリノキ（ミズキ科）

山地に普通に生える落葉低木です。花は咲いたと思うと、すぐに落ちてしまいます。花弁は 6 枚で線形です。写真のように著しく外側に巻き込みます。雄しべは 12 個あり、葯は黄色で細長いです。果実は楕円形で藍色に熟します。名は葉の形がウリの葉に似ていることからつけられました。花も果実も楽しむことのできるウリノキです。

アワモリショウマ（ユキノシタ科）

近畿地方以西、四国、九州の山地などに自生しますが、観賞植物として庭園に植えられる多年生草本です。葉は２～４回三出複葉、小葉は披針形、基部はくさび形、堅くて光沢があります。上部に円錐花序を出して、多数の薄いピンクの小花をつけます。名は泡盛升麻の意味で、泡が集まったような花を形容して名付けられたと思われます。

ウツボグサ（シソ科）

日本各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。茎の断面は四角形で、葉は対生し長楕円状披針形です。茎の先に花穂をつけ、紫色の唇形花を密につけます。うつぼ（靫）とは昔、武士が矢をさして背負った武具のことで、この植物の花穂がそれに似ているからつけられたようです。

オニシモツケ（バラ科）

山地の谷沿いに群生する多年草です。葉は奇数羽状複葉で頂小葉は特に大きく掌状に５裂します。茎の先に多数の白色の小花を密集して開きます。花弁は４～５枚で雄しべは多数あり花弁よりずっと長いようです。シモツケソウの仲間では一番大きいのでオニの名がつきました。

シモツケ（バラ科）

山地の日当りのよい場所に生える落葉低木。高さ 1m 内外，葉は互生して狭卵形～卵形，縁には鋸歯があります。花は散房状に群がって小さな 5 弁花をつけ，普通は淡い紅色。おしべは多数。花後，小さな 5 個の袋果をつけます。シモツケは，生育地の下野国（現在の栃木県）からつけられた名ですが，本州から九州まで広く見られます。

ホタルブクロ（キキョウ科）

チョウチンバナ、ツリガネソウ、ホタルグサなどの方言がある、山野に生える多年草です。茎の上部に大きな鐘形の花をつけます。花は淡紅紫色または白色で、先は５裂します。萼片のところにそり返った附属体があります。そり返らないのは、ヤマホタルブクロです。名は蛍袋で、ホタルを入れて遊んだからと言われています。

エゾアジサイ（アジサイ科）

日本固有種で、北海道と本州北部及び日本海側の山地の斜面や沢沿いに生えます。葉は先のとがった楕円形で大きく、縁に粗い鋸歯があり、対生します。花は青淡色の小さな両性花の周りに、花弁４枚の大きめの装飾花を付けます。花の色は青色系統と赤色系統があります。